

このメールは、インストロンからのメール配信に許可をいただいている方に送信されています。

インストロン® TechNotes 材料試験に関する最新情報

Vol 21

テクニカルヒント(特別編)

非接触式ビデオ伸び計のメリットに関する調査結果

インストロンは、最近、お客様の伸び計に対するニーズを把握するための調査を行ったところ、多くのお客様が、クリップオン伸び計によるひずみ測定の実験中に、共通の問題を経験していることが判明しました。この調査から導き出した解決策、およびクリップオン伸び計に代わる方式の情報について以下にご説明いたします。

我々の調査により、以下のことが明らかになりました：

問題点-1:壊れやすい試験片や高価な試験片、デリケートな試験片(腱および縫合糸などを含む)を扱っているお客様の77%が、試験片に損傷を与えずにひずみを測定するのに苦労しています。これらのお客様は、試験中の試験片の挙動にクリップオン伸び計の重さが影響してしまっていると述べています。

解決策-1:ビデオ伸び計は試験片に接触しないため、基本的にサンプルに損傷を与えません。ビデオ伸び計はバイオメディカル試験片の生体内試験にも活用いただけます。

問題点-2:激しく破断する試験片を試験するお客様にとっては、クリップオン伸び計は破断を通して使用できないことが問題でした。また、お客様は、伸び計の破損にかかわる問題も指摘しており、試験片に荷重が加わった状態で研究室のオペレータがクリップオン伸び計を外すことは好ましくないと感じています。

解決策-2:ビデオ伸び計は破壊を通してひずみを測定でき(破断伸び)、試験中に取り外す必要がないので、オペレータにとって利便性が高いです。

問題点-3:高温や低温で試験するお客様の多くは、環境槽で使用できる従来型の伸び計を探すのに苦労しています。

解決策-3:環境槽を使用するお客様の86%は、従来のクリップオン型よりもビデオ伸び計を好んでいます。

まとめ:従来型伸び計とビデオ伸び計の両方を使用したことのあるお客様の77%は、ビデオ伸び計の技術をより好ましいと考えていることがわかりました。詳細については、[非接触式ビデオ伸び計](#)のページをご覧ください。ご質問などは、弊社の[オンラインフォーム](#)からお問合わせください。



? お問い合わせ

営業推進チーム
TEL: 044-853-8530

[オンライン問合せ >>](#)

✓ 4200/4400シリーズ試験機をお使いのお客様へ

最新の3300コントローラとソフトウェアへアップグレードし、強力で柔軟な機能を手に入れることができます。使い慣れた試験機本体やロードセルはそのままご利用いただけ、新しい試験機に買い換えるよりもずっと低価格です。

[詳しくはこちら >>](#)



インストロンジャパン カンパニイリミテッド
〒216-0006 神奈川県川崎市宮前区宮前平1-8-9
TEL: 044-853-8520
www.instron.jp